4-4 水と生活文化

琵琶湖周辺に住む人々は、古くから水とかかわる生活や生業を営み、多様な工夫や知恵を育みながら、独自の特性のある生活文化が形成されてきました。そうした日々の水利用によって育まれる生活文化が現在も多彩多様に継承されています。

1. 名水の郷

琵琶湖周辺には、「名水百選」にも選ばれ、数々の名水の郷として知られています。昭和60年に選定の「名水百選」として選定されたのは、彦根市西今町「十王村の水」と米原市大清水「泉神社湧水」があります。また、「平成の名水百選」として選定されたのは、長浜市「堂来清水」、高島市「針江の生水」、米原市「居醒の清水」、そして愛知郡愛荘町「山比古湧水」があります。さらに、地域の資産として価値の定着化をはかり、2008(平成20)年度より、琵琶湖とその周辺の水に関する文化資産のうち、特に優れたものを「近江水の宝」に琵琶湖周辺の多くの地域が選定されました。

このような地域では、古くから人びとは水とともに生きる多様な経験を活かし、現在も地域住民による主体的かつ持続的な水環境の保全活動も実施され、水環境を地域の資産として大切に守られています。

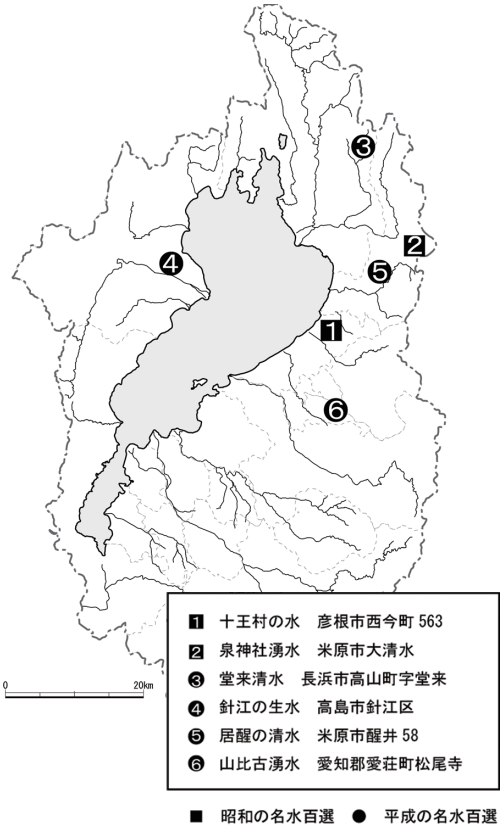

図4-4-1 名水百選の地域

2. 水とかかわりのある生活

琵琶湖周辺における様々な水の利用形態は、人と水のかかわりの原点を表し、数々の名水の郷を成り立たせています。現代社会における水環境の豊かさを判断する指標ともなりうる、今も続く水とのかかわりかたに学ぶことが多くあります。

(1)「カバタ」のある生活文化

写真4-4-1 カバタ

湖水や川の水、湧き水など、多様な生活文化が現在も継承されています。名水百選や近江水の宝にも選ばれた琵琶湖湖西に位置する高島市新旭町針江では、今も、「カバタ」と呼ばれる湧き水のところが多く残っています。カバタは、湧き出る源水を元池にし、そこから水を引いて流れ出るところを壺池、使った水を流すところを端池とし、水の流れに沿った構造となっています。カバタの水は飲み水、米や野菜洗い、漬けものやフナ寿司づくり、炊事や調理、風呂用水などのための生活用水として利用されたほか、神事の水としても利用されています。こうした伝統的な「カバタ」の利用をめぐる生活文化は今も受け継がれています。

(2)共同の水場のある生活文化

写真4-4-2 カナボウ

湧き水を利用する文化が現在も継承されている地域は湖北にあります。例えば、長浜市湖北町海老江では、湧水を三段の水槽に流し、飲用や洗いなど用途によって使い分けをしています。米原市大清水では、泉神社の湧水が多量に湧き出し、地域内外の方が水汲みに訪れています。また、「カナボウ」などといったような水場も利用されています。米原市世継の「カナボウ」は、現在も野菜などの洗い場として地域住民に活用されています。この水場の周辺に溜まった土を畑に戻したり、定期的に掃除をしたりするなど、住民主体による水場の共同管理も持続的に行われています。

3. 生活や文化の継承

現代、水道が普及し、身近な水との関わりを続けようとする地域があるのはなぜでしょうか。水利用や川の掃除などといった関わりを通じて、その水環境を身近に感じ、それによって環境に対する関心が高くなったり、保全活動を持続したりすることにつながります。水をめぐる環境の問題を含めた地域課題を解決するには、水と関わり続ける生活や文化が継承されるかどうかが鍵となります。

琵琶湖博物館　**楊 平**